

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針	指標 (目標年度:平成32年度)	目標数値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	現状分析と今後の方向性	
1 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合	70%以上	46.8%	48.6%	47.2%	51.4%	51.5%	44.6%	<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表1)のとおり</p> <p>○平成28年度の市民意識調査において、週1回以上スポーツをすると回答した市民の割合は、全国平均の数値(42.5%)を上回ったものの、前年比では減少している。</p> <p>○市民意識調査の結果を分析すると、30歳代のスポーツをする人の割合が約27%であり、全世代の中で最も低く、それ以降世代が増すごとにスポーツをする人の割合は増えている。</p> <p>○70歳代のスポーツをする人の割合は約61%であり、全世代の中で最も高いが、前年比で減少している。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>○東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を、市民がスポーツへの関心を高める絶好の機会と捉え、スポーツに対する市民意識の高揚を図る必要がある。</p> <p>○仕事や育児が忙しい30歳代から40歳代の人に対してワークライフバランスを推進し、ライフスタイルに合わせて気軽にスポーツに参加できる機会の増加に向けて取り組む必要がある。</p> <p>○健康寿命の延伸の観点から、高齢者の健康に焦点を当てた取組を強化する必要がある。</p>	
	30分以上健康のために歩く70歳以上の割合	男66% 女56%	男57.9% 女47.9%	—	—	—	—	男69.2% 女60.8%		
2 学校における体育・スポーツの充実	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(高等学校は新体力テスト)の結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合	小学校	8種目中、7種目以上	—	5.5種目	6種目	5種目	5.5種目	5.5種目	<p>【現状分析】</p> <p>○小・中学校では、全国体力等調査において、実施種目の半分以上が全国平均値を上回ったが、数値目標を達成することはできなかった。</p> <p>○高等学校では、新体力テストにおいて、全国平均値を上回る種目数が下降傾向にあり、数値目標を達成することはできなかった。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>○今後も引き続き、小・中学校の児童生徒を対象とした体力向上に向けた施策に取り組む必要がある。</p> <p>○高等学校においては、中学校との接続を図った体力向上に向けた取組を進めていく必要がある。</p>
		中学校	9種目中、7種目以上	—	5種目	6種目	5.5種目	7種目	5.5種目	
		高等学校	9種目中、7種目以上	5.3種目	5.5種目	5.3種目	5.8種目	4.7種目	3.3種目	
3 競技力の向上	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む。)の割合	65%以上	47.7%	57.5%	55.5%	57.7%	54.6%	49.7%	<p>【現状分析】</p> <p>○平成28年度は前年比で、広島市選手の割合が減少している。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>○今まで以上に広島県の取組と連携を深め、ジュニア選手の発掘・育成を推進するとともに、ジュニア選手医科学サポートを積極的に活用し、国体出場選手に対するサポート体制を強化する必要がある。</p>	
4 まちの活力創出に向けたスポーツの振興	トップス広島に加盟するチームの試合を年1回以上会場で観戦した市民の割合	50%以上	37.2%	37.1%	37.0%	39.8%	41.7%	43.2%	<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表2)のとおり</p> <p>○平成28年度は、過去6年間の市民意識調査における最高値であり、前年比で、50歳、60歳、70歳代の観戦率が大幅に上昇している。</p> <p>○女性の観戦率は年々上昇傾向にあるものの、依然として男性よりも10%程度低い。</p> <p>【今後の方向性】</p> <p>○今後、女性の観戦率の更なる増加に向けた取組を推進していくとともに、カーブやサンフレッチェ以外のチームの観戦者の増加や市民のスポーツに対する意識の高揚に向けた取組を推進していく必要がある。</p>	